

1. 認知症初期集中支援千一△

※市区町村認知症施策担当者各位

下記について、提供頂ける情報がありましたら、既存資料でも結構ですので、どうぞよろしくお願いします。

関東信越厚生局
地域包括ケア推進課長

認知症対策好事例

- ① 認知症初期集中支援チーム
2. 認知症地域支援推進員
3. 認知症カフェ
4. その他（ ）

(千葉県 松戸市)

1. 認知症初期集中支援チーム

【認知症初期集中支援チーム事業の拡充】(資料 1-①②)

本市では、平成 27 年度より認知症初期集中支援チームを医療機関に 1 チーム設置し事業を実施しておりましたが、平成 29 年度より、地域包括支援センター3カ所でモデル実施し、現在 4 チームで事業を展開しています。

地域包括支援センターのモデルチームは、職員とともに、認知症サポート医と理学療法士または作業療法士でチームとして事業を展開しています。

【認知症初期集中支援チーム事業の事例集作成】(資料 2)

また、2年間の支援ケース 23 件について「オレンジサポートチーム(認知症初期集中支援チーム)事例集」としてまとめました。地域包括支援センターから依頼された事例を、チームがどのようにアセスメントを行い支援したか、また関係機関の連携について事例の共有化を図るため作成し、今後、本事例集が認知症支援に係る関係機関において、内容の統一化・均質化を図り、誰もが良質な支援を平等に受けられる体制を構築していくための支援のまとめとしました。

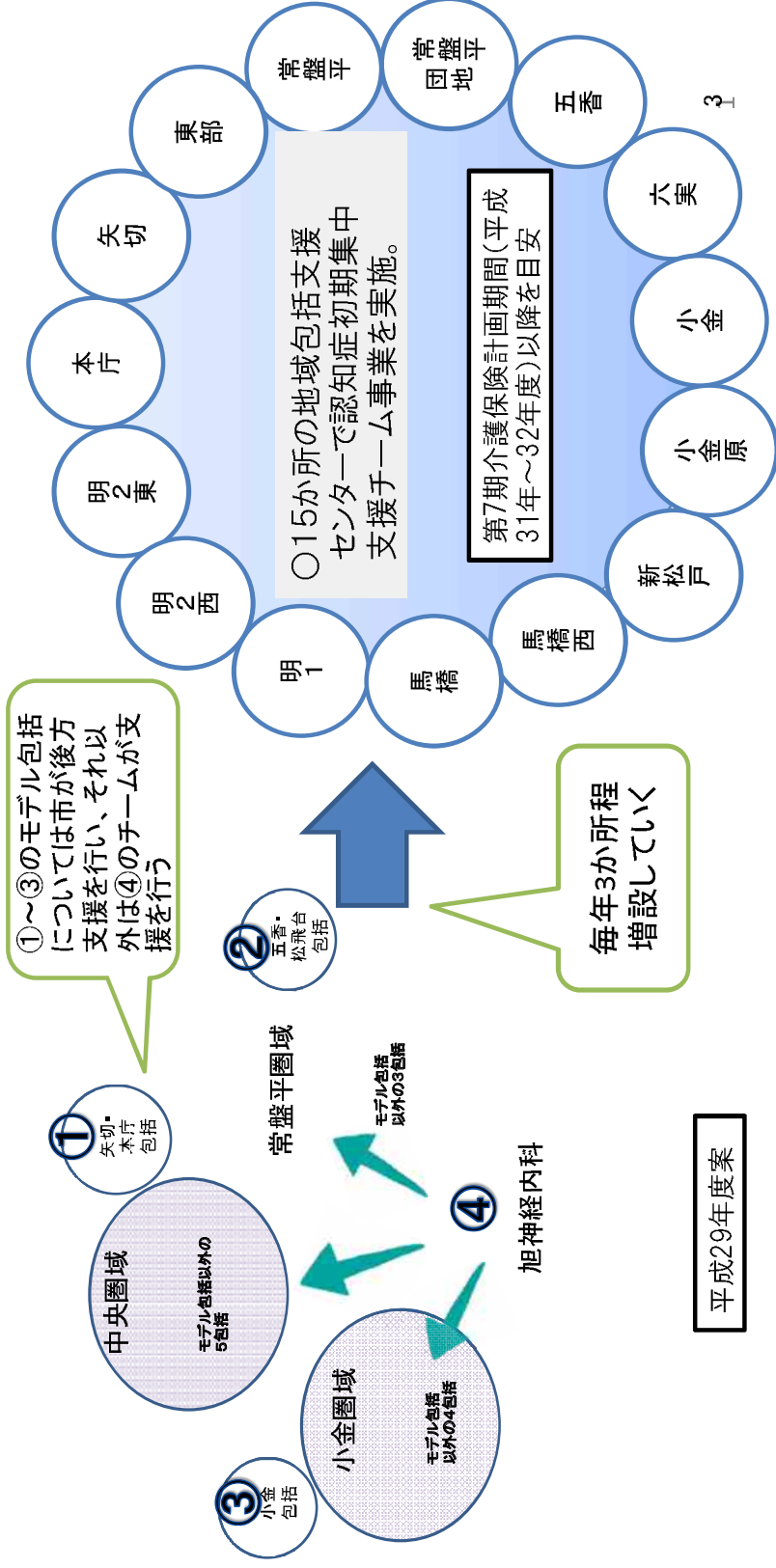
* 適宜行数を増やして作成してください。

平成29年度以降の認知症初期集中支援チームの拡充について

資料1-①

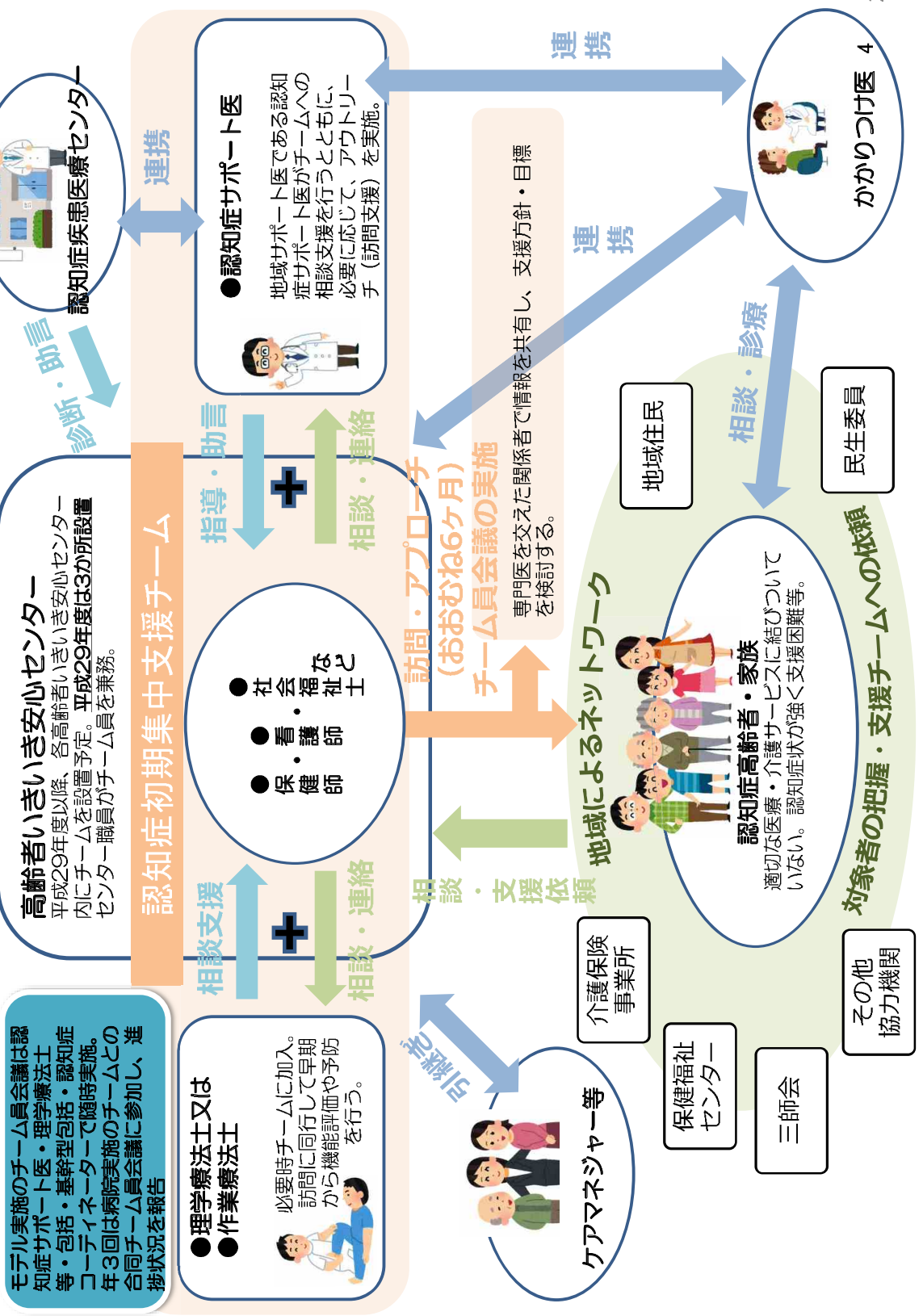
①平成29年度の方角性

- 3環境区（中央地区、小金地区、常盤平地区）ごとにチームを設置し、新たに、地域包括支援センター3カ所程度に増設し、現在の旭神経内科リハビリテーション病院とあわせて、合計4カ所程度とする。
- 地域包括支援センターに新設される新たなチーム（3カ所程度）は、原則、担当する日常生活圏域の事例に対応することとし、旭神経内科リハビリテーション病院は、包括担当以外の12圏域程度を分担し担当する。
- 認知症疾患医療センターは、地域包括支援センターに設置されたチームを指導・助言等を行う。



平成29年度 認知症初期集中支援チーム (オレンジサポートチーム) 資料1-②

地域包括支援センターモデル実施 概要図



※市区町村認知症施策担当者各位

下記について、提供頂ける情報がありましたら、既存資料でも結構ですので、どうぞよろしくをお願いします。

関東信越厚生局
地域包括ケア推進課長

認知症対策好事例

- ①. 認知症初期集中支援チーム
2. 認知症地域支援推進員
3. 認知症カフェ
4. その他（ ）

(長野県 東御市・岡谷市・下諏訪町・辰野町・山ノ内町)

東御市

- ・もの忘れ外来など専門医療につながった。
- ・本人はすぐにサービスに繋がらない場合でも、家族が家族会に繋がったことで、家族の負担軽減が図れた。
- ・チーム員のもの忘れ外来の医師がいるため、医療との連携ができた。
- ・チーム員会議で検討することで、多角的な視点で見ることができ、支援の幅が広がった。

岡谷市

- ・今までも地域包括支援センター等で認知症等の相談を受けていたが、チームを設置することで、相談窓口が明確になった。
- ・チームの立ち上げについて、講演会や広報、新聞、行政チャンネル等で周知したことで、相談者が増えた。
- ・サポート医がチームに加わっていることで、速やかに受診に繋がることが出来る。

下諏訪町

- ・認知症で気になる人がいる→「何処に相談したら良いか分からない」だったが、周知することで「包括支援センターに相談すれば良いんだよね」と住民の意識が変わってきた。また、「相談出来る場所がある」と言うことが、「何があっても大丈夫」的な拠り所のように思ってくださっている方が増えた。
- ・近所に気になる人がいる」と言う住民からの情報提供が増えた。
- ・家族の会や病院・事業所等、社会資源との連携が密になってきている。
- ・サポート医がチームに加わっていることで、速やかに受診に繋がることが出来る。

辰野町

- ・認知症初期集中支援チームの設置に伴い、民生委員など地区組織や関係職種へ事業の周知を図ったことで、地域から“気になる人”の情報が地域包括支援センターに入りやすい体制整備ができた。

- ・チームの関わりを通して受診をすることで、診断・治療にすすんだケースや、介護サービスの導入に至ったケースもあり、認知症の早期診断・早期対応につながった。

山ノ内町

- ・医療職と福祉職と一緒に訪問することで、それぞれの専門分野を生かした情報収集やアセスメントが行えるようになった。医療受診に向けた動機づけや介護サービス利用の勧奨がしやすくなった。

- ・複数訪問のため、本人や介護者と別々に面談することができ、それぞれの本音を聞ける。

* 適宜行数を増やして作成してください。